

学校評価（職員用）集計結果

職員数	回答数	回答率
16	16	100%

A（そう思う）、B（大体そう思う）、C（あまりそう思わない）、D（そう思わない）（%）

	1 教育目標・学校運営、家庭等との連携	A	B	C	D
1	児童生徒の実態を踏まえた教育目標を設定している。	75	25	0	0
2	教育目標の具体化のための取組がなされている。	62	38	0	0
3	保護者に教育目標の周知を図っている。	44	56	0	0
4	教育目標を具体化するために、校長の経営方針の下、職員の共通理解が図られている。	44	56	0	0
5	コロナウイルス感染防止の対策を可能な限り取って教育活動は行われている。	75	25	0	0
6	一斉メールや緊急用携帯電話等を活用し、保護者への連絡や意思疎通をきめ細かく行っている。	69	31	0	0
7	学校だよりの配布や他校との交流を行うなど、開かれた学校づくりを推進している。	87	13	0	0
8	学校評議員、PTA及び地域の方々の意見を学校運営に反映するよう努めている。	62	38	0	0
9	児童生徒の緊急時にすぐに対応できる体制やマニュアルを、いつでも活用できる状態にしている。	56	44	0	0

	2 教育課程・教育計画等	A	B	C	D
10	児童生徒の障害の状態や特性に応じて教育課程を編成している。	69	31	0	0
11	学校行事は、職員の共通理解の下、組織的な運営が行われている。	62	38	0	0
12	学校行事は、反省を次年度の計画・実施に生かすようにしている。	62	38	0	0
13	教育課程は、自立と社会参加を目指したものになっている。	69	31	0	0
14	担任している児童生徒が重点目標を達成できるように努めている。	69	31	0	0
15	児童生徒の実態と学習指導要領の内容を踏まえ、教務支援システムを使用し、適切に個別の指導計画を作成している。	75	25	0	0
16	小・中学部の系統性及び発展性を考慮した指導計画を作成している。	56	44	0	0
17	教育活動全体を通して、自立する姿を見据えた志教育の実践に努めている。	44	50	6	0
18	個別の指導計画は日々の学習活動に活用されている。	56	44	0	0
19	児童生徒が主体的に学習へ取り組めるように工夫している。	56	44	0	0
20	教育活動を推進するに当たり、児童生徒の障害の状態を把握している。	56	44	0	0
21	一人一人の教育的ニーズに応じて、指導内容や指導方法を設定している。	56	44	0	0
22	TTによる指導の良さを生かしながら指導に当たっている。	50	50	0	0
23	その都度話し合いを重ねるなど、授業や指導の改善を図っている。	56	44	0	0
24	地域の人々とのふれあいや他校、本校児童生徒との交流及び共同学習を通して、集団活動へ参加しようとする態度を育成している。	75	25	0	0

	3 進路指導・情報教育等	A	B	C	D
25	児童生徒の障害の状態及び発達段階や特性などに応じた進路指導が行われている。	69	25	6	0

26	進路指導担当者と学級担任が連携しながら対応できる体制になっている。	25	69	6	0
27	進路指導に関わる連絡や情報提供（進路だより、進路の手引きなど）がなされている。	50	44	6	0
28	進路相談会などを通して家庭との連携が図られている。	62	38	0	0
29	授業の情報機器（パソコンやタブレットPCなど）や視聴覚機器・図書教材が積極的に活用されている。	50	50	0	0
30	情報セキュリティ意識の向上に努め、情報セキュリティポリシーを遵守している。	44	56	0	0
31	充実した活動を支援するために必要な機器や環境の整備が図られている。	43	38	13	6

	4 生徒指導・保健・給食等	A	B	C	D
32	生活のきまりや生徒指導計画、いじめへの対処方針が設定され、共通理解の下、指導に当たっている。	81	19	0	0
33	防犯訓練を実施し、防犯への意識を高め、共通理解を持って指導に当たっている。	56	44	0	0
34	不審者対策や防犯用具などが整備されている。	56	44	0	0
35	児童生徒の安全のため、関係諸機関との連絡・連携を定期的に行いながら防犯指導に努めている。	69	31	0	0
36	防災訓練、引き渡し訓練など、より実際に向けた訓練活動を計画し、実施している。	75	25	0	0
37	交流集会や感謝する会などを通して、児童生徒相互の交流や感謝の態度の育成に努めている。	87	13	0	0
38	バス乗車指導を行い、児童生徒が安全にバスを利用するための指導に努めている。	81	19	0	0
39	いじめの早期発見や実態把握のためのアンケートを行い、結果を保護者や教職員と共有している。	87	13	0	0
40	いじめが生じたときには、速やかに学部や全体で共有し、適宜対策委員会等を開くなどの体制が整備されている。	87	13	0	0
41	学校生活・定期健康診断等を通して、一人一人の健康目標に応じた健康づくりの指導がなされている。	81	19	0	0
42	健康な生活や習慣の形成を目指して、家庭との連携が図られている。	75	25	0	0
43	児童生徒の実態に即して意図的、計画的に給食指導がなされている。	87	13	0	0
44	給食指導を推進するに当たり、「給食指導に係る確認及び実態調査」を実施し、家庭との連携を図っている。	81	19	0	0
45	清掃指導など環境美化に関する指導が常時行われている。	87	13	0	0
46	児童生徒の安心・安全な生活を目指して、常時、全職員による安全点検を行い異常箇所の早期対応に努めている。	87	13	0	0
47	学級での安全指導など、より実際に向けた学習活動を計画し、実施している。	69	31	0	0

	5 研究・研修	A	B	C	D
48	校内研究の取り組みは、教師の専門性を高める機会となっている。	75	25	0	0
49	コミュニケーション計画シートは、研究を円滑に進めるための手立てになっている。	62	38	0	0

50	研究及び研修に必要な図書の整備と、情報の収集及び提供に努めている。	44	56	0	0
51	諸検査法講習会など、教師の専門性を高める研修会を実施している。	87	13	0	0

	6 校内及び地域への支援	A	B	C	D
52	個別の教育支援計画は、実際の指導・支援及び支援会議、サービスの利用などに役立っている。	81	19	0	0
53	特別支援教育の専門性を高めるための研修の実施や必要な情報の提供、相談・支援などが適宜行われている。	75	25	0	0
54	地域に向けた取り組みとして、児童生徒の作品公開や居住地校学習が、組織的、計画的、継続的に行われている。	69	31	0	0
55	地域のセンター的機能として、圏域市町の幼稚園・保育所及び学校からの相談に対応して、特別支援教育の理解を促すとともに、児童生徒への支援体制が整うように努めている。	81	19	0	0
56	地域のセンター的機能として、圏域市町の関係機関（教育委員会や保健担当課等）、及び、他の特別支援学校などとの連携強化に努めている。	81	19	0	0

	7 会計・施設設備等	A	B	C	D
57	会計処理について、共通理解が十分になされている。	69	31	0	0
58	事務手続きや会計処理は、明瞭、迅速、正確に行われている。	62	38	0	0
59	教育（学習）環境の面で、施設・設備が安全に配慮され、整備されている。	25	50	25	0
60	教育（学習）環境の面で、教材・教具を有効に活用できるよう整備されている。	50	50	0	0
61	施設・設備の整備について、共通理解の上に進められている。	44	44	6	6

改善策					
毎月、安全点検を実施し、各教室をだけでなく教室外の状況も安全を確認するよう努めている。しかし、校舎の老朽化に伴い、地震等の影響で不安な箇所も多い。今後も、常に施設・設備の状況に気を付け、気付いた点はすぐに報告してもらい、事務室や白石中と相談しながら、できるだけ早急に改善に取り組んでいく。					

	8 防災・危機管理	A	B	C	D
62	児童生徒の緊急時にすぐに対応できる体制やマニュアルを、いつでも活用できる状態にしている。	81	19	0	0
63	校内研修の実施は、職員の防災意識の向上を担っている。	75	25	0	0
64	備蓄品の管理や試食体験を行い、非常時に備えている。	75	19	6	0

	9 総務・その他	A	B	C	D
65	スクールバス運行会社と連携・調整して、安全な運営、運行に努めている。	87	13	0	0
66	大学と連携・調整しながら教育実習、介護等体験等の計画と実施、評価を行っている。	87	13	0	0
67	P T A 担当として、保護者との調整を図りながら、学校運営の連携強化を図っている。	75	25	0	0

10 自由記述欄：反省事項がある場合は、改善案を明記してください。

自由記述	改善策
児童生徒及び職員用のトイレが非常に不便である。洋式トイレは便座が冷たく、冬はかなり厳しい状況である。	事務室から、県教委の担当部署に働き掛けてもらう。基本的に白石市の建物なので、県独自に工事することは難しい。また、予算も関係してくるので、即対応は難しい。
働き方改革の話題が出るが、来年度児童生徒数が増えるため、業務内容の見直しと削減を図った方が良いと思う。	削減については、各学部や各部で検討し、減らせるところは減らしていいと思う。しかし、白石校のコンセプトから考えると、狭い教室だけの活動ではなく、地域の教育力を活用し、将来地域で暮らす児童生徒のことを考えた、楽しいと感じる活動を行うことが大切である。 来年度の児童生徒数は19名になる予定だが、極端に増えるわけではないので負担が増えるとは限らない。 また、昨年度までは先生方の時間外勤務は月45時間を超えることはなく、ほとんど19時前に退勤できていた。このことから考えると、白石校の業務内容や業務量は極端に多いと言うことはなく、個人ごとの仕事のやり方を工夫することによって、負担を軽減することは可能だと考える。
起案をして校長の職印を求めた箇所があったが、職印がなく返却されて困ったことがあった。	白石校は基本1週間に1回のやりとりになるので、不備が無いように願います。また、職印がほしいところには付箋を貼り、その旨を記入する。